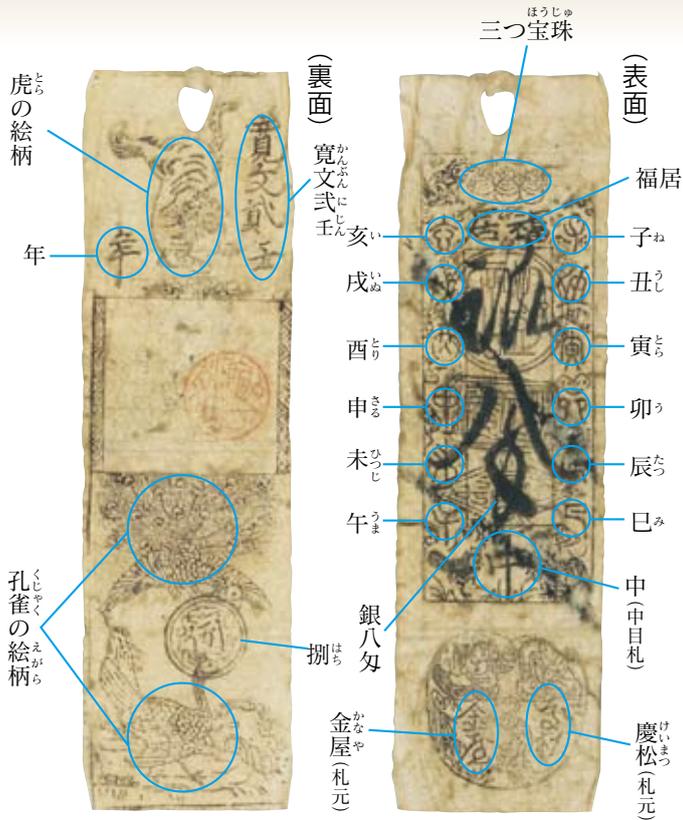


【福井藩札の見方】

福井藩札(寛文2年)



福井藩札(元治)



写真で掲載した寛文2年(1662)札と元治札(慶応元年(1865)より通用)を事例に福井藩札を見ることにしたい。最初の寛文2年札の表面は上部に三つ宝珠とその下に「福居」の文字があり、中央に3種類の印判が押されている。その上からは「銀八匁」と墨書され、中目札を表す「中」の文字も見える。また、その左右には「子丑寅…戌亥」と十二支の文字が配されていて、その下部には「慶松」「金屋」と札元の名が刷られている。裏面には上部に「寛文貳年」と発行年が刷られ、その間には同年の十二支(寅)である虎の絵柄が配されている。中央に2種類の印判が押され、下部には孔雀が刷られている。その上から「捌」の印判が押されているが、これは額面の「銀八匁」と対応している。

次の元治札の表面上部には「元治」の年号と大宝珠が刷られ、中央には印判が押されていて、その上から「銀百匁」と墨書されている。その左右には「銀百匁」に対応して「百・船・博・拍・璞」と数詞を表わす文字が配されている。下部には「大目札」の文字と札元と札座を兼ねる「荒木」「駒屋」の名が刷られている。裏面上部には恵比寿が配され、中央に「福井」の文字、下部に亀が刷られて、その上から2種類の印判も押されている。

寛文札と元治札に共通するのは、版木で刷られた上に印判が押され、さらに額面が墨書されていること、孔雀や亀など極めて細密な絵柄が刷られていることである。これらはいずれも贋造改作を防止するための工夫であり、さまざまな図柄の藩札が製造されていたのである。また、版木の製作は高度な技術を要するため、京都や江戸で新彫された他、年号の彫替も行われていた。そして、使用済みの古版木は焼却処分などにされた(「藩札屏風」)。

ところで、両方の札ともかなり摩耗しているが、このことはかなり通用されたことを示している。札は通用が終了すると焼却されたり裁断されたりして破棄された。

次回の展示

〈松平家史料展示室〉

テーマ展「越前松平家の名品10」

平成23年11月16日(水)～平成24年1月15日(日)

松平家史料展示室 展示解説シート No.60

平成23年9月16日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489

担当 印牧信明

印刷 白崎印刷株式会社

電話 (0776)53-6300 FAX(0776)53-7068